

(前頁から)

アール(一反)に五五〇本ですから約二千株という計算になりますね」
「桑園の経営では、県下では一、二位というところですが、慣行桑園とはどういうふうな異なっているんでしょう？」
「植付や栽培の方法が違うわけですよ。ちよつとこの向いの桑園との比較が好い例です」

といわれて眺めてみますと、一見してその植付の状態が本田さんの場合と異なっていることに気がつきました。

「ごらんのように、まづ株と株との距離がこの古い方法ですと横一メートル五十一センチ(五尺)縦六〇センチ(二尺)となつていますが、私の場合は一メートル八〇センチ(六尺)と九〇センチ(三尺)という具合に間かくを広くもつてゐるのです。これはなぜかといいますが、省力養蚕ということばのとおり、ムダな労力を省くためです。やがて葉がいつばいにつきますと、慣行であれば、まづ桑葉の通風、採光が悪いうえに畦から生えてくる除草のために、桑の幹や枝がその作業の邪魔になつてきます。結局、一株づつ、その頭の方を紐か何かで縛つてゆか

RKK 3月分農家の手帳

日曜	放送	テーマ
1日	愛	林週間が始まりました
2月	3	月の農業気象と農作業
3火	桑	の接木準備
4水	苗	代用地について
5木	春	先きの養豚管理
6金	桑	の春切り
7土	果	菜類ビニール、トンネル栽培
8日	苗	代の資材準備について
9月	33	年度産米の出荷
10火	サイ	ロの構築について
11水	み	かんの植付け
12木	造	林上の注意
13金	水	稲早期の播種
14土	ラ	ミーの需給状況
15日	夏	ミカンの販売
16月	桑	の春肥は早めに
17火	畑	稲早期の播種準備
18水	椎	茸の共同出荷
19木	畑	地の春そ菜定植上の注意
20金	畑	地の土壌線虫防除について
21土	動	物を可愛いがりましたよう
22日	杉	タマバエの防除
23月	桑	の切接
24火	夏	作飼料作物のマキツケ
25水	海	苔の作柄と市況
26木	豚	の流通状況について
27金	季	節のツケモノのつけ方
28土	春	ソ菜の出荷
29日	乳	牛分娩時の手当のしかた
30月	此	の頃の果樹園の手入
31火	BM	だより

なければならなくなるわけですね。これが反当り七、八百本ともなりますと大変な労働ですよ。しかし、新養蚕の私の場合ですと、それは逆に採光、風とおしが良くなるばかりでなく、コンモンベッチの間作のおかげで雑草の繁殖を防ぎ、従つて除草や桑株の先を縛りつけるなど大きな手間がいつさい省けることになるわけですね。このほか、桑の手入れや作り方など技術的にも大へん進んだ方法があり入れられたので、五回にわたつて摘む桑の量を三回で摘むように、すべての点について省力ができるわけです」

以上、北原さん、本田さんお二人の場合のように、新養蚕ということが先づは桑園経営の合理的な改革であつたことがおわかりでしょう。
ちなみに過去をふりかえつて、三十一年度(慣行養蚕)の養蚕をやつてゐる村とそうでない村との比較をみますと、養蚕をやつてゐる村の方がやつていない村より、農協の預金が三二パーセントも多し、逆に借金が一四パーセントも少しいうことは、やはり養蚕の現金収入の良さで、桑園十アール(一反)は水田十アール(一反)に匹敵するほど経済上の有利性をもつということなのです。
ところが、このような有利性を実現する過程の中に、不眠的な過度の労働力がおしかくされていたのでは、決して健全な営農とは申せないのです。
ですから、このような現況から脱却するために、桑の作り方から蚕の飼ひ方などをかえてもらい、節減された労力を稲作や畜産へと結んで双方の生産量をふやしてゆけば、次第に良い繭を安い値で生産することが出来るわけです。そしてさらにこれを畑作のふるわぬ地域や開拓地へ拡げてゆくのも、新養蚕の使命といえましよう。
(広報課 蚕糸課)

鳥のSPOT

緑化週間

鶏が逃げまわるほど木が植わり緑化運動始まり緑の羽根文字どおり羽根が生えてとぶ、鶏も三月がくると毛をむしられるものと覚悟すべし。

有明丸第二船

自動車が行き合う花日和
有明丸送船も一隻の時代は片便だつたが、航路によいよと第二船も完工して近く航路につくと海上の出合いも必至。

観光シーズン来

霧島は怒り大阿蘇笑うなり
新燃岳の噴火につけても去年の阿蘇爆発を思い出すが今や山上の観光施設も新装成つて旅客をさし招く。

開拓団頑張る

人間の脂(あぶらが)いつちき
もともと不毛の開拓地、肥料の数は多いが何といつても人間の努力に勝るものはないらしい。

火の用心第一

焼けあとに火の用心が焼けのこり
火の用心は昔から耳たこの標語で知らぬものもないが、それでいて火事が出るのは結局心にしまりがなからぬこと。

広報くまもと
125号
昭和34.3.1発行

★
発行所 熊本県広報課
熊本市行幸町19
発行編集人 村上清蔵
印刷所 白石印刷出版
熊本市島崎町
電話 ② 6812
昭和32年6月25日
第三種郵便物認可